



# AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.159

## ■ AAと私 ～ 罪を犯した人の立直りとAA

1 私とAAのみなさまとのおつきあいは、平成2年に東京の更生保護施設で寮生のアルコール問題からの回復を支援する取組を始めた時からになります。その後の平成6年、東京都墨田区において、ニュージーランドのメンバーを招き、AAの方々のある会議が開かれた際も、ご縁からお声をかけていただきました。日本で矯正施設にAAのメッセージを運ぶということについて話し合う会議でした。

福岡保護観察所長 荒木龍彦

そのころは、「日本は、先進国の中で矯正施設にAAのメッセージが届いていない唯一の国」などと言われていました。その少し前に調査したところ、それ以前にもAAのメッセージが矯正施設の酒害教育の中に取り入れられたことがないこともなかったのです。ただ、行われてもAAメンバー、施設側のいずれかの事情で断ち切れになるということが多くあったようです。その後、AAの方々が高齢矯正委員会を開東などで立ち上げるようになってから、全国で多数の施設に活潑にAAのメッセージが運ばれるようになっていきます。

2 犯罪をしてしまう背景に飲酒の問題がある人は、保護観察対象者では約1割、刑事施設(刑務所と拘置所)の被収容者では、さらに高い割合になります。典型的なアルコール依存症の方で無銭飲食や酒類の窃盗を繰り返す場合もあれば、飲酒の影響のもとに窃盗、暴力行為、自動車運転、放火、性犯罪などを繰り返してしまう人もいます。その中では、どうしたらこのジレンマから抜け出すことができるのかわからなくなっている人もいます。わからないという点では指導を行う刑務官や保護観察官も同じで、なかなかそういう受刑者たちが問題から回復して立ち直っていく姿をイメージできません。

そのような時、刑事処分を受けた経験のあるAAのメンバーがその体験を語り、AAにつながってから、飲酒の問題から回復して、再犯に至ることもなく、とても人間らしい生き方をしておられるという姿を示してくださることは、AAを知らない受刑者にとっても矯正・保護の職員にとっても驚きであり、大きな希望を感じるものです。そのような生き方に接する機会こそ、数多い問題飲酒の受刑者たちが新しい人生を始める第一歩であると思います。

3 AAの方と出会いがあったから、私はどこの保護観察所に赴任しても、AAメンバーの方々に支えていただくことができました。関わっていて「この人はむずかしい」と感じる保護観察対象者であっても、私たちを上回る熱心さと温かさでメンバーの方々には彼らに接していただきました。そのたびに私たちは、「あきらめちゃいけない」と感じ、その対象者に関わることを励まされてきました。ある日、すれ違って家族との再会をとげずに命を落としてしまったアルコールの仮釈放の方がいた時には、仕事を終えてからすぐにAAのミーティングに行き、そして別の日に地域フォーラムにも参加して無念の思いを話しました。どの折も、それを温かく受け止めてくださ

たメンバーの方々のまなざしがありたく、職場では見せない涙がその場ではとまらなかつたことを覚えています。今もAAの方々との交流の中での忘れられない思い出です。

AAの方にお声をかけて協力していただくことの大切さは、私たち自身がそういう勇気やエネルギーをいただくところにもあるのだと感じてきました。するとある時、病院や福祉事務所のワーカーの方たちも同じことを話しているのを聞いて、そういう気持ちになることは普遍的なものなのだと思ったりしました。そのワーカーさんたちがとても熱心にアルコール問題に苦しむ方々の援助に関わっておられるお気持ちもわかる気がしたものです。

4 その後、矯正・保護の関係者を集めるパブリックミーティングが、平成13年から関東各県で、そして平成18年からは全国を単位に開催されるようになって、AAの皆さまと私たち矯正・保護等の職員との接点も次第に広がっていきました。それは、各地域でそれぞれに活動していてあまり顔を合わせる事がなかった人々(AAメンバー、矯正・保護職員、医療・福祉関係者等)が意見を交換し、その後の連絡につなげる貴重な場でありました。準備段階から、出席者それぞれが、あらためてアルコール問題について考え、「AAのメッセージをその地域の矯正・保護の現場に広げる」という課題にそれぞれ知恵をめぐらすよい機会になってきたと思います。ですが、どの会議でも、刑事処分を受けた経験があるメンバーの方々の体験発表が、AAのプログラムについての生きたメッセージとして、最も強く光彩を放っていたことは申すまでもありません。

5 今年は、この矯正・保護パブリックミーティングが、初めて九州沖縄地区でも開催されました。お話をされたメンバーの方々は、刑事処分歴を語ることも初めてであったのか、どなたも緊張した面持ちでしたが、参加した関係者には大きな感動を与え、AAのプログラムへの期待を集めるには十分であったと思います。平日に開催されたこともあって、AAのメンバー以外の関係者の参加が50人を超え、終了後も多様な感想や意見が寄せられたようです。AAを中心として多業種の人々が年ごとに集う場として、長く続けていただけたらと思っています。

各地におけるAAの方々の矯正・保護の分野でのメッセージ活動の進展に、心からの感謝とお祝いの気持ちを表したいと思えます。

## ■各地域より

### 矯正・保護パブリックミーティングを終えて

実行委員会 眞美

日程 2月20日(水)10時～16時

場所 福岡市民福祉プラザ

テーマ アルコール依存症からの回復～AAの願い～

AAを九州・沖縄地域の矯正保護施設関係者に知っていただくという趣旨で、開催する事になりましたが、地域主催のイベントとしては初の催し。何をしてもよいのやら、どのように動いてもよいのやら、内心は迷いと不安でいっぱいでした。福岡保護観察所の荒木所長、栗野監察官のご尽力がなければ、とてもこの日を迎える事ができませんでした。心より感謝しております。また、各地区より選出いただいた実行委員には、報告や情報の伝達が遅れがちになったり、要望ばかりをお願いしたりと、ご迷惑をおかけしました！メンバーの寛容さのなかで準備を進めさせていただいた事に感謝しております。

当日は寒い朝でしたが、天気は晴れ。何人の関係者が来ていただけなのか？とにかく広報できるところにはやったつもりでしたが、不安でした。普段より早めに会場入り。福岡の仲間が手慣れた様子で会場設営している横で打ち合わせが始まり、メンバーも早々と来てくれ、顔なじみの仲間、久しぶりに会う仲間、緊張の糸が解けてきました。仲間のなかで安心して関係者の方々をお迎えすることができました。10時前には会場はほぼ満席の状態、開会の挨拶が始まってはまだお出迎えが終わりません。嬉しい悲鳴(人生初)でした！(医療)20名、(行政)10名、(保護)9名、(矯正)3名、(弁護士)5名、(メディア)4名、その他6名、メンバー63名。計120名(数字は参加者名簿に基づき作成)。

AAと矯正保護施設関係者の方々との交流の場を創出できた事で今回のイベントの意味合いができ、九州・沖縄地域にとって、確かな、大きな一歩を踏み出す事ができたような気がいたします。今回の経験から、いろいろな課題もいただきました。きちんと棚卸しをし、貴重な財産として次回へ引き継いでいく事も肝要です。今後、私たちAAサイドとしては、関係各方面からのご要望にきちんと討議し対応できる体制作り、過不足なく情報を伝達し、迅速にお応えできるネットワークを築くことが急務ではないでしょうか？このパブリック・ミーティングの終了後直ちにたくさんの反響が届き始め、新しい展開がありました。参加したAAメンバーからは、矯正・保護施設にメッセージを届けている仲間の体験談を募り、矯正メッセージの必要性和喜びを伝えていきたいとの提案もいただきました。私たちがいただいたこの恵みを、どういう形でまとめ、どうやって世の中に出せば、一人でも多くの仲間に伝わるのか、熱心な試みが進行中です。近い将来、ご報告をさせていただく機会があると思いますが、その節は、どうぞよろしくお願いいたします。

小さなことからコツコツと！一人ではできなくても、ひとりひとりの力が集まれば、自ずと道は拓けていけると確信できたイベントでした。末筆になりましたが、改めて荒木先生をはじめ関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

### 第18回AA日本評議会を終えて

#### 『大きなフロアには大きなハンドリングの輪』

関東甲信越地域 前期評議員 鈴木

平成25年2月9日(土)から11日(月)までの3日間、第18回AA日本評議会が千葉県習志野市で開催されました。今まで開催していた川崎の街中とは違い、落ちついた静かな駅前に降り立つと緊張した気持ちも少々和らいだ様でした。

そもそも私が評議員に相応しいとも思っていませんでしたし、させていただくことになるとも思ってもみませんでした。AAにつながった頃、評議員はソーバーの長い偉いメンバーになるものと漠然と感じていました。地区委員時代に出会った評議員はユーモアに富み、経験と知識を兼ね備え、やさしく分かりやすくAAの全体の事を教えてくれました。それまでの評議員のイメージを変えて下さりました。非常に悩みましたが、そのメンバーの事を思い出し、またスポンサーとも相談し今までのサービス経験と同様に自分を大きく変えてもらえると思ひ、お受けする事に致しました。

前置きが長くなりました。評議会に先駆け事前勉強会が行われしました。生憎自分は体調不良を起こしてしまい参加できませんでした。今回の議題について掘り下げ、共通理解を得る事や議事進行についての内容です。限られた3日間で30件余りの議題を皆の良心に従い話し合うわけですから、スムーズに進行を行う為にはこの勉強会は有意義なものだと思います。過去はもっと多くの議題があったそうで評議会当日も深夜まで話し合いが行われたと聞きましたから、先達のメンバーは、きっと熱く臨んでいたのだと思います。

全体会議の大きな部屋に扇状にデスクが並び、正面には「第18回AA日本評議会」とあり身の引き締まる思いが致しました。ガイダンスを終え、分科会に先立ち全国の地域の評議員さん達と再び今回の議題についての分かち合いを行いました。ここで全国から寄せられた提案の細かな背景を知り分科会や全大会に臨むわけです。私は関東に居住しており、関東のグループ数・地域オフィス充実の恩恵を受けているとあらためて感じました。その地域の感覚で思考しがちですが、ここは全国を土俵としている事(うまく言えませんが)私も含めメンバーには県境などなく今までの経験や伝えられた事と照らし合わせて、1つ1つの議題に対して広い視野で臨むことに意識しなくてはと感じさせられました。

3日間の進行には多くのボランティアのメンバーが事務局として非常に尽力をされており、初参加の自分にとって心強い思いで過ごすことが出来ました。大きな会議で皆がそれぞれの役割を果たしていく姿に感動致しました。

飲まない年月を頂き社会にも戻り日々を過ごす中、丸々3日間多くのメンバーに囲まれAAの事だけを考え、話し合い、正直幸福を感じました。AAにつながり苦しかったけれど仲間にも囲まれていたあの頃を思い出しました。

全体会議も終わり、大きなフロアには大きなハンドリングの輪が出来ました。3日間を通し、各地域の評議員さん、常任理事の皆さん、事務局の皆さんのAAへの真剣な思いと真摯な姿に頭の下がる思

いでした。今後も多くの仲間と出会い、より深くサービスを学び、来年の評議会に臨めたらと思います。

## 『AAの役割と回復』

関西地域 前期評議員 西村

アルコールクスアノニマスのプログラムに来てから誰でも必ず、一度はAAそのものやAAの運営のやり方に「んっ？」と思う時期があるように思います。

例えば、ホームグループのチェアパーソンをやっていた時など、「自分だけが何でこんなに苦勞しなきゃいけないんだろう？」とか「あいつは何にもサービスやってないジャン?!」とか。直接自分に影響を与えていない仲間を恨んだりします。グループの運営方針や顔も見るとイヤな人ができてグループを抜けて、しばらく無所属ですとか言うのです。しかし、やがて、グループに入っていないと自己紹介の時少し恥ずかしく、そのうちだんだん寂しくなってきた、また、どこかに所属したりします。

飲む事の恨みや恐れや自己嫌悪からせつかく解放されたのにまた、新たな恨みが生活のなかに次々と生まれて来ます。水面下で依存症は進行しているのだと思います。だからプログラムをやらないと悪くなる一方なのかも知れません。キラいな仲間を恨んだり、頭の中で批判したりする事は最近少なくなったのですが、以前はひどかったです。特に委員会やビジネスミーティングなどでAAにとって自分がこれこそ、一番正しいと思っていたことが否定されたりすると相手の言っていることを理解するより先に、「何にもこいつは分かっているんだ？」と心の中で思っていたものです。

AAでは年一回、選挙で選ばれた地域の代表者(評議員)が集まり、地域やグループからの要望や話し合ったいことを持ち寄り、二泊三日間の会議、「AA日本評議会」を開催します。分科会、ディスカッションありの少々ハードスケジュールです。今年は初めて千葉県幕張で開催されました。

今回の第18回評議会に参加して思った事はAAプログラムの中のひとつである「仲間のために奉仕すること(サービス)」によって自分が助けられた、という実感でした。日々のミーティングが嫌になることは減多にないのですが、「疲れた」とか「雨が降ってきた」、「寒い」とか「暑い」とか、ミーティングへ行きたくなくなることが、たまにあります。AAに疑問を持ち始めた頃と行きたくない気持ちがうまくかみ合えば、当然AAには行かなくなるのですが、何か役割を任されていると豪雨の中でもがんばって出かけなければなりません。最初、それは「仲間のために何かをやる！」と言う気持ちではなく、「いい加減なやつ」だと思われたいからで。単なるエエ格好しいのですが、動機は何であれAAのことに関わるのです。このことはアルコール依存症者の性格を逆手にとった良くできたプログラムだとつくづく思います。

所属グループ運営のための話し合い(ビジネスミーティング)を手始めに、AAの会議は「人間関係の回復」の実践りハーサルみたいなものだと思います。イライラしたり、ある人を恨んだり、憎んだり。誰かを標的にして、優越感に浸ったり。

数年前の評議会は深夜まで及び、「寝不足で疲れたけど、感動しました。」という感想が多かったように思います。近年は「楽しかった。充実した二泊三日を過ごせた。」のようなものが多くなりました。私自

身も、昨今は以前より地区、地域の会議の途中でイライラしたり、誰かを恨んだりすることが少なくなったように思います。日本のAAが成長したのか、私が大人になったのかは不明ですが、評議会では大変楽しく、清々しい日を過ごさせてもらったと思います。

私は第二分科会の議長として仕事を二つもらって帰りました。「AAのラジオ CM 作成」と「AAの新ポスターの公募」です。この役割により、新たな人達と出会い、協力関係を築き、苦勞もすると思いますが、楽しくもあります。飲む時は人と会うのも嫌で、頭の中は「次に飲む酒」の段取りばかりだった私でも前向きな考え方ができるようになり、過去にとらわれていた生き方からは解放されてきたなあと、思います。日々の仕事と生活、AAミーティング、AAの役割などで過去にとられる時間ありませんし。次の行動を考えなければなりません。私の中から「次に飲む酒」がいつの間にか、消失していました。それに気が付くのは、やめ始めてからずっと後のことでしたが。

「AAプログラムは必ず幸せになり、自分の未来に希望を持って」とこれからも伝えていきたいと思っています。そう信じていると、仲間のために奉仕することが、楽しさや安らぎにつながるのだと思います。

## 『書籍の売り上げはとても大きな収入』

関東甲信越地域 前期評議員 吉野

今回の第3分科会(出版・財務・WSM)では、新しい本を出版して欲しい、という議題があり、私も胸ふくらませて評議会に臨みました。結果として今回は残念ながら報告には至りませんでした。あきらめずにどうしたら出版できるようになるのかなど、考えてゆきたいところです。

AAでは書籍の売り上げはとても大きな収入となっています。それは仲間のみんなからの献金と同じくらい大きな収入です。ならば、新しい書籍が出たら収入も増えるわけだから出版したらよかろう、と考えられるわけです。しかし、せつかく作られた書籍でも売り上げが伸びずに収入が増えるどころか掛かった費用をまだ回収できずにいる本もある、という話を聞き、新しい本もそうなる可能性を感じました。収入が増えなければ『ビッグブック』や『12&12』を作ることに手一杯になってお金を新しい本に回すことができないわけです。お金をためて本を作る、本を作るとみんなが買って読んでくれる、ということなら問題ないのかも知れません。

実は私の父は長く出版社に勤めた人で、電車の中でも家でもいつも原稿を読んでいる人でした。家族で旅に出ても原稿を読んでいたその父が、私の22歳の誕生日に新書をくれました。しかし数日後、酔っぱらった私は「こんなもの、いらぬ」と丸めて父に投げつけていました。持っていた楽譜も裂き、アルバムの中の自分の写真をゴミに出し、恩師の手紙も破ってしまいました。この場を借りて改めてごめんなさい。

さて、AAにつながってセミナー等の書籍売り場に行くと、静かに仲間が座っていますが、私はそういう役割をしている仲間になりたいと思っていました。やっとな書籍担当を任された私は「どれがおススメ？」と聞かれては大変だと思い、ちょっとずつ読みました。その頃の私の一番のおススメは『ベスト・オブ・ビル』(400円)です。ちょっと高くても、読んでいて胸が躍ったからです。今、おもしろいのは『ワールド・サービスのための12の概念』(500円)です。わかりにくいこと

